

蹴武の型の愛称の由来と演武時の心得

2011年9月15日
日本テコンドー協会
宗師範 河 明生

日本テコンドー協会（以下、J T A）門人諸氏は、日本跆拳道の修練を通じて、華麗な蹴り技の名手を目指すのはもとより、汚れた金、汚れた人脈、汚れた不動産を断固として拒絶できる「正義の心」、大小様々な組織や家族内でのリーダーとしての自覚に基づく「ぶれない信念」、地震・津波・台風の自然災害等の危険・危機の際、「最善の選択を可能とする平常心」等、「強い精神力」を高めながら胆力を涵養すべきである。

上記を可能にするために、私・河は、蹴武の型を創始した（現在10完成、残り4）。蹴武の型は、門人諸氏が修得すべき蹴り技の名称と共に、偉大な足跡を後世に残した偉人達の姓・号・通称等（以下、名と称す）を愛称とし命名している。蹴武の型に名を冠している彼らは、「信念の偉人」であり、「自己の人生に対する美意識をもつ偉人」であった。

現代の我々、とくにこれから希望に満ちた人生を歩まんとする若者は、人生の道しるべたる偉人、とりわけ蹴武の型に名を冠している偉人から「人生とは何か」を学ばなければならない。いまだ人生を完結しておらず、偉人として歴史に名を残せるかどうかも極めて懐疑的な私利私欲の政治家や官僚、大企業経営者、成り上がりの金持ち、芸能人、スポーツ選手等を人生の模範にすべきではない。やはり、完結した偉大な人生から、後世の人々が、「あの方の人生は、まさに世のため、人のためだった」と感動できるような偉人の足跡を模範とすべきである。

蹴武の型は、演武の際、
「蹴武の型！ **！」
と愛称を発声する。
その趣旨は、J T A門人諸氏が、
—当該蹴武の型に冠した偉人の教えを喚起し演武すべきである
というものである。

例えば、指導者が「蹴武の型！ 南洲！」と発声し、門人が「南洲（なんしゅう）！」と応じれば、明治維新や廃藩置県等の最大の功労者であったにもかかわらず、奢らず高ぶらず、質素・儉約・清廉を旨とし、私利私欲の蓄財にはまったく感心をもたず、むしろ私服を肥やすことを恥とみなした西郷隆盛（号・南洲）の遺訓を喚起しなければならないのだ。

日本跆拳道は生涯の道に値する至高の武道たらんと欲している。我々は、蹴武の型を演武する都度、偉人達の教えを喚起し、時として我が身を恥じ、時として己の未熟を悟り、時として遠く偉人には及ばないものの、少しずつではあるが着実に近づいている我が身を省みなければならない。

その持続的継続こそが、上記の「正義の心」、「ぶれない信念」、「最善の選択を可能とする平常心」等の「強い精神力」を高めながら胆力を涵養する最善の道であると信ずる。